

## 連載企画

自動車リサイクル業界を  
担うホープ(17)

名前:川口 和也(かわぐち かずや) (31歳)  
 所属:有限会社大清解体 (大分県由布市)  
 担当:生産課  
 特技:水泳  
 MBTI :主人公型(天性のリーダーシップを備えているのが大きな特徴で、責任感が強く、チームをまとめることが得意)

- 仕事で誰にも負けない部分  
状況判断能力
- この業界の魅力を一言で  
様々な車種を扱うことができパーツの仕組み、構造を知ることができる
- 将来の業界への期待  
リサイクル技術が進化し、再資源化できる業界の発展に期待

※MBTIとは認識・決定理由・処理方法など16タイプの性格に当てはめるテストで、キャリアの適性判断、チームワークの強化、最近ではアイドルのプロフィールなど様々な分野で利用されています。

## INDEX

【連載企画】自動車リサイクル業界を担うホープ / 巻頭言 —— P.1

【連載】自動車リサイクル業界の転換点を生き残る —— P.2

資源回収インセンティブ制度 全国WEB説明会のご案内 / JAERA 会議報告 —— P.3

LiBの電解液量の公開について —— P.4

7月新車販売・使用済自動車発生台数 / 中古車輸出に係る返還台数 —— P.5

鉄スクラップ最新情報 —— P.6

行事予定・お知らせ / 編集後記 —— P.7

## 巻頭言

広報部会

木村 香奈子

この度の九州地方における大雨災害で被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と、安全・安心な暮らしの再建をお祈りいたします。

お盆過ぎてから名古屋地域においても40度近い猛暑が続いています。厳しい残暑が続く中、九州地方で冠水車両引取りや現場作業に従事される皆様は、安全に作業を進めていただき、こまめな水分補給や休憩を取りながら熱中症などには十分お気をつけください。

ここ数年、全国的に最高気温が上昇し、気候変動の影響を身近に感じます。CO<sub>2</sub>排出削減や再生可能エネルギーの導入は重要ですが、大量の太陽光パネルの設置や廃棄問題など必ずしも“エコ”と言い切れない課題もあります。私たちが資源循環の現場から、持続可能な未来を見据えた取組を考え、実践していきたいです。

## 02

## —連載—

## 自動車リサイクル業界の転換点を生き残る (5)

## 解体業界の変化と課題 (3)

ところで、筆者らは、この間、リユース産業に従事する移民系企業が特定の地域に集中して立地するという現象やその論理を様々な地域で確認してきた。比較的分散立地している日系企業とは異なっている。

また、このことが競争上の優位性に繋がっていると考えてきた。このことから、解体業者が多い市町村では、3か国人口も多いことが想定される。図1では、市町村ごとの3か国人口と解体業者数の関係を示した(ただし3大都市圏の政令指定都市はいずれも人口が突出して多いため除外した)。板東市や四街道市、佐倉市は、解体業者も3か国人口もいずれも多いことが分かる。また正の相関家計であり、相関係数はほぼ0.6と、それなりに強く、都道府県の場合と同様、両者のデータには関係があるといえる。ただし、都道府県データと同様に、移民系企業が特定地域に分厚く展開していることの証明にはならない。

次に、移民系企業の参入が盛んなのであれば、解体業者が増加している市町村では、3か国人口も増加しているはずであり、表1ではこれを確認した。2025年7月時点での解体業者数が6件以上の市町村を対象とし、2023年からの増加率順に並べ、それぞれの人口増加率も示したものである。人口データは2024年末までの1年分に限定される。



北海学園大学  
経済学部教授  
浅妻 裕

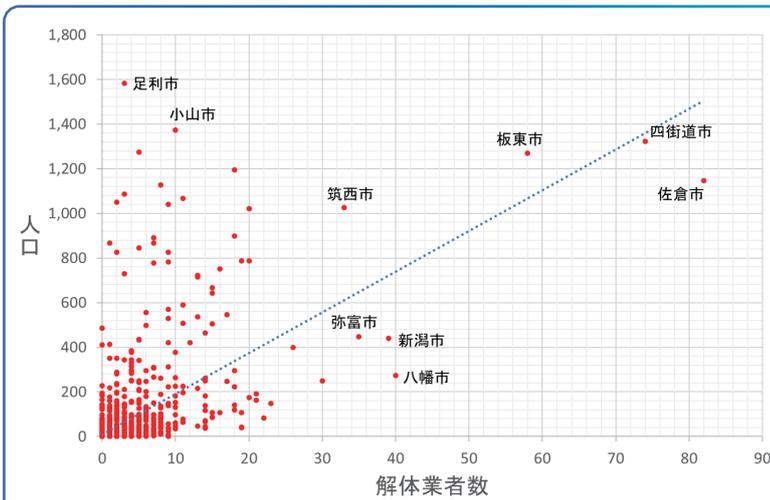


図1：市町村別にみた自動車解体業者数と3か国人口との関係

図1 市町村別にみた自動車解体業者数と3か国人口との関係  
注：人口は2024年末、解体業者は2025年7月時点の数である。  
出典：自動車リサイクルシステム、在留外国人統計

順位	市町村名	解体業者増加率	人口増加率
1	群馬県伊勢崎市	63%	24%
2	福岡県宗像市	60%	30%
3	福岡県古賀市	60%	21%
4	茨城県結城市	50%	43%
5	茨城県下妻市	50%	38%
6	三重県桑名市	50%	17%
7	北海道当別町	50%	34%
8	佐賀県みやき町	50%	22%
9	富山県射水市	44%	10%
10	宮城県角田市	40%	67%
11	鹿児島県霧島市	33%	29%
12	宮城県栗原市	29%	6%
13	岐阜県海津市	29%	6%
14	茨城県常総市	25%	26%
15	福岡県飯塚市	25%	14%
16	茨城県筑西市	22%	29%
17	茨城県古河市	22%	42%
18	佐賀県佐賀市	22%	40%
19	群馬県邑楽町	20%	27%
20	千葉県旭市	20%	32%

表1：増加率上位20市町における3か国人口増加率

表1 自動車解体業者数増加率上位20市町における3か国人口増加率  
出典：自動車リサイクルシステム、在留外国人統計

これによると、解体業者数が大きく増加しているところでは総じて3か国人口も同様に増加しているといつてよい。増加した人口の一定割合が自動車解体業に参入している可能性がある。ただし、解体業者数が6件以上の全市町村を対象として、解体業者と3か国人口の増加率の関係を見たところ、両者にはほぼ相関関係は見られなかった。「外国人事業所」が多いとされる茨城県や群馬県、千葉県が表1の上位にランクされていることから、これら市町村ではやはり南アジア系の解体業者が著しく増加している可能性が高いと思われるが、このデータのみで断言するのは難しい。今後、市町村別人口データが積み重なっていくため、この推移を注視する必要がある。

最後に、このような現状をふまえて、今後どのような取り組みが必要になるのか、若干付言しておきたい。移民系企業は、日系企業に比して、言語や文化的な差異があることはやむを得ない。このことにも起因して、一部の外国人事業者による不適正事案(不適正な解体・不適正な保管)や無許可解体が問題となっている(JAERA NEWSLETTER 176号、2023年)。まずはこれらの企業に対する自動車リサイクル法をはじめとした日系企業同様のコンプライアンス遵守を徹底することが肝要である。この点では、自動車リサイクル促進センターやJAERAなどが連携して定期的実施している外国人事業者向け研修会は重要な取り組みである。全国的に展開するのは困難かもしれないが、上記のような解体業者が急増している地域を対象とした研修会の開催なども視野にいれてはどうだろうか。

また、今後、サーキュラーエコノミーへとシフトしていく過程においては、共同出荷等の企業の枠を超えた組織化や協調の先に、潜在的な付加価値の顕在化、さらには企業や業界の持続的な発展が考えられる。この点からは、自動車リサイクル士の在籍やコンプライアンス要件を満たしている移民系企業との連携を模索すべき局面にあるといえよう。

次号(最終回)へ続く

## 03 ▶ 資源回収インセンティブ制度 全国 WEB 説明会のご案内

2026年4月から始まる「資源回収インセンティブ制度」は、ASR発生量の減少や再生材利用の促進を目指す新しい取り組みで、国のガイドラインに基づき導入されます。

JAERAでは、制度の背景や仕組み、参画方法、現場で必要となる作業などを分かりやすくまとめた「手引書」を作成し、公開しております（手引書は[こちら](#)）。本制度への参画は義務ではありませんが、今後、樹脂類などの資源回収がより重要視されることが予想されており、制度を理解しておくことは、将来的な対応にも役立ちます。

このたび、制度の正しい理解を深めていただくため、JAERAによる制度説明会をZoomによるオンラインで開催いたします。こちらはJAERAの会員・非会員を問わず、解体事業者の方であればどなたでも無料でご参加いただけます。

### 開催日程と対象地域

日程	時間	対象地域
9月17日(水)	10:00～12:00	北海道・東北
9月18日(木)	10:00～12:00	関東・中部北陸
9月24日(水)	10:00～12:00	近畿・中国四国
9月25日(木)	10:00～12:00	九州・沖縄



※地域ごとの情報共有を目的として各回で参加対象地域を設けておりますが、都合等により参加が難しい場合は他の回への参加も可能です。  
※自社がどのブロックに該当するかは[こちら](#)からご確認ください。

詳細・申し込みは[こちら](#)から

なお、今回の説明会は対象となる樹脂とガラスのうち、樹脂に特化した内容となっております。別途FAXでもご案内しておりますので、制度に興味のある方は、ぜひご参加ください。

## 04 ▶ JAERA 会議報告

### 中国・四国ブロック会議—7月29日(火) 岡山県岡山市—

今回は、JAERAが作成した資源回収インセンティブ制度の“手引書”を基にした説明会が行われた。制度を取り巻く背景や運用方法等について詳細な解説がされ、参加者からは、制度の導入に向けた課題や現場での対応について活発な意見が寄せられた。中国・四国ブロックでは、制度の理解を深めるため、ブロック内で情報共有などを進めており、地域の実情に即した制度活用の可能性についても議論が進められている。今後は、手引書の内容を踏まえつつ、各地域での実践的な取り組みを通じて、JAERA会員に対して制度の正しい理解と定着を図る方針である



会議の様子

### 東北ブロック会議—7月29日(火) 宮城県仙台市—

会議では、資源回収インセンティブ制度に関する説明会が開かれ、制度の仕組みや活用方法について参加者が理解を深めつつ、東北地域におけるコンソーシアム形成の可能性について、地域特性を生かした連携の在り方を模索し、活発な意見交換が行われた。また、10月に秋田県で開催予定の東北ブロック交流会について、参加者が有意義な時間を過ごし、情報共有を一層充実させるための具体的な内容が検討された。さらに、青森県では新支部長が就任し、新体制のもとでさらなる活動の充実が期待されている。地域のつながりを強化し、持続可能な活動を推進するための取り組みが着実に進んでいる。

### 中部北陸ブロック会議—8月7日(木) 愛知県名古屋市—

今回は、資源回収インセンティブ制度に関する説明会を中心に行われ、支部長以外の会員も参加された。説明後、現場課題を中心とした率直な意見交換が行われ、制度参画による作業負担の増加や、車台番号を用いた保管・管理の難しさといったポイントへの意見が挙がった。これを踏まえ、現場実態に即して運用負担を可能な限り軽減する方法などの検討や情報交換が必要であるとの認識が共有され、制度を取り巻く循環経済の全体像を明確にし、業界全体で方向性を共有すべきとの意見や、実効性を確保するため、今後も情報共有と改善提案を継続する重要性を確認した。

05

お知らせ

## —自動車再資源化協力機構より— LiBの電解液量の公開について

### リチウムイオンバッテリー（LiB）引取依頼システムで電解液情報が確認できるようになりました！

リチウムイオンバッテリー（以下「LiB」）の電解液は消防法の引火性液体（第四類の危険物）に該当し、保管量の上限が定められています。解体事業者の皆様におかれましては、LiB以外の危険物も含め、適正な管理が必要です。LiBは不適切な保管により火災が発生する恐れがあるため、メーカーの取外マニュアルに基づいた取外しと適正な状態（直射日光、高温、多湿の場所を避け、風通しが良く、雨水・海水等で濡れない場所等）での保管をお願いします。LiB引取依頼システムでは1個から引取が可能ですので、お早めに引取依頼登録をお願いします。

LiB引取依頼システム内で、引取依頼登録されたLiBの電解液量や、車種/型式ごとにバッテリーに含まれる電解液種別/電解液量が確認できます。危険物の適正管理にご活用ください。尚、対象はLiB共同回収システムに加盟しているメーカーに限ります。

### LiB引取依頼システム内での電解液情報の確認方法

#### ①引取依頼登録されたLiBの電解液量の確認方法

トップページ→引取依頼履歴（電解液保管量情報）

クリックすると詳細が確認できます。（指定数量の倍数計算について説明資料あり）

指定数量の倍数計算について  
危険物の指定数量の倍数の和：0.13倍

電解液種別	指定数量	危険等級	該当LiB保管個数	電解液保管量合計	指定数量の倍数
第四類引火性液体 第一石油類（非水溶性）	200L	II	0個	0L	0倍
第四類引火性液体 第一石油類（水溶性）	400L	II	0個	0L	0倍
第四類引火性液体 第二石油類（非水溶性）	1,000L	III	25個	128.3L	0.128倍
第四類引火性液体 第二石油類（水溶性）	2,000L	III	0個	0L	0倍
第四類引火性液体 第三石油類（非水溶性）	2,000L	III	0個	0L	0倍
第四類引火性液体 第三石油類（水溶性）	4,000L	III	0個	0L	0倍

（ご注意）LiB引取依頼システムへ登録されたLiBをもとに倍数を計算しています。未登録LiBの電解液量は含まれておりません。

引取依頼登録されたLiBの電解液量が確認できます。

#### ②バッテリーに含まれる電解液種別/電解液量の確認方法

トップページ→バッテリー情報

メーカー/車種/型式ごとにバッテリーに含まれる電解液種別や電解液量が確認できます。

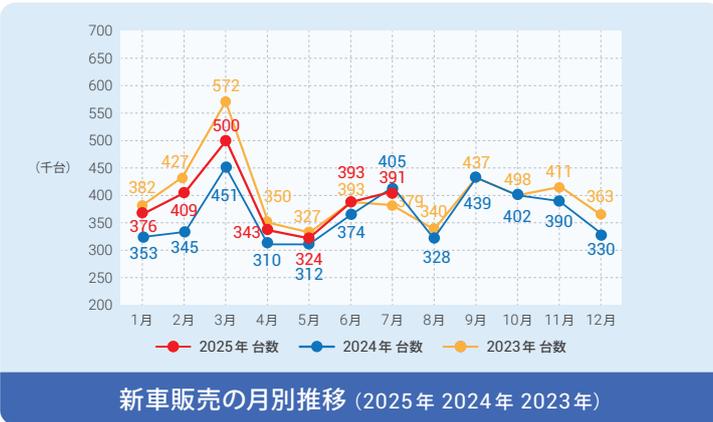
06

7月新車販売・使用済自動車発生台数・中古車輸出に係る返還台数

2025年7月の台数動向

— 新車販売は前年割れ、使用済車・輸出返還は前年をわずかに超える

■2025年7月度 新車販売台数 390,512台 (前年同月比96.4%)

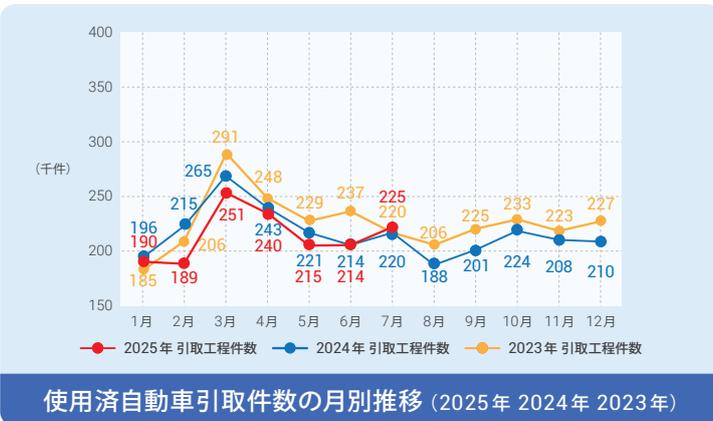


年累計	台数(台)	前年比(%)
2025年(7月まで)	2,735,973	108.0
2024年	4,421,494	92.5
2023年	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■使用済自動車引取 (電子マニフェスト) 実施状況

2025年7月度 引取工程 224,576件 (前年同月比101.2%)



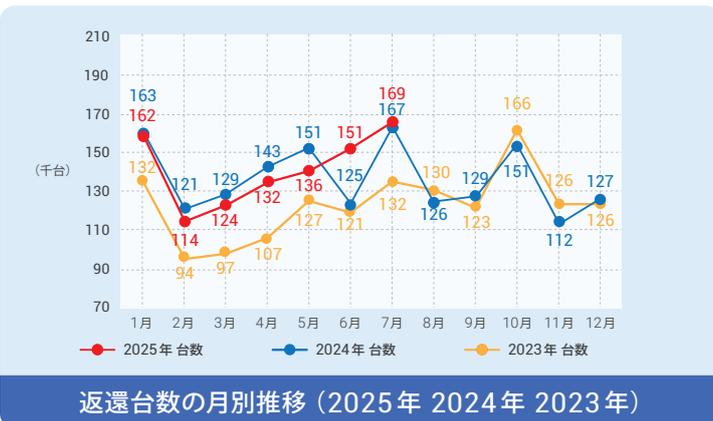
年累計	件数(件)	前年比(%)
2025年(7月まで)	1,522,348	96.6
2024年	2,607,112	95.5
2023年	2,731,329	98.6
2022年	2,769,122	87.5
2021年	3,165,022	100.8

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

■中古車輸出に係る返還台数※

2025年7月度 169千台 (前年同月比101.2%)

※中古車の輸出に伴い、預託していたリサイクル料金を返還した台数



年累計	台数(千台)	前年比(%)
2025年(7月まで)	991	99.2
2024年	1,644	111.0
2023年	1,481	115.7
2022年	1,281	95.5
2021年	1,342	107.2

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

## 07

## 鉄スクラップ最新情報

[ 提供：日刊市況通信社 ]

## 8月第5週（28日）の鉄スクラップ動向



8月28日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	39,000 ~ 40,500	軟調
	南関東	39,000 ~ 40,500	軟調
	浜値	39,500 ~ 40,500	軟調
名古屋		39,000 ~ 40,500	様子見
関西	大阪	38,500 ~ 40,500	続落
	姫路	38,500 ~ 39,000	続落

## 西日本 需要低迷を反映し岡山以东で値下げ波及

西日本地域の鉄スクラップ市況は軟地合いだ。東京製鉄・岡山工場の断続的な値下げに加え、大阪および姫路では複数のメーカーの炉休入りが見受けられるため、需要減退を背景に、市況の下落懸念は残ったままの状態にある。

東京製鉄は8月27日から岡山工場と高松鉄鋼センター、関西サテライトヤードで一律500円の追加値下げに動いた。この結果、岡山工場の特級買値は39,000円に下落した。同社・九州工場は6月4日から値動きがないため、特級買値は39,500円のまま横ばいとなっており、岡山工場は同社の製鋼拠点間で最安値圏へ沈んだ。同社・岡山工場では圧延トラブルが製鋼操業にも影響をもたらしており、これが同工場への供給機能を担う高松鉄鋼センターや関西サテライトヤードの値下げにもつながったと推測されている。

東京製鉄岡山工場のトラブル要因に加え、大阪や姫路では集中炉休によって、来月生産が急減するため、「岡山や関西では下げ余地が残り、これが他の地区にも波及する可能性は十分にありそう」（商社）との声が聞かれる。

## 東日本 北海道相場が500円続落 東鉄岡山の下げ受け対応

東日本市場では、東京製鉄・岡山工場を指標とする北海道の2電炉が8月28日にそれぞれ500円値下げを実施した。28日時点の北海道のH2炉前実勢価格は、35,000～36,000円中心に後退。北海道相場は22日以降、計1,000円値下がりしており、東日本の他地区に対して先行安となっている。なお関東地区のH2炉前実勢価格は39,000～40,000円中心、高値40,500円見当。H2浜値は39,500～40,500円中心となっている。

## 東海 需給双方とも様子見姿勢で横ばい

東海市場の鉄スクラップ市況は約2カ月にわたって横ばいの展開となっている。西日本市場で22日に続き、27日からも値下がりする展開となったが、東海市場は需給双方とも様子見の姿勢を崩していない。その一方で電炉筋の夏季炉休は集中期を終え、8月末まで2社、9月以降は1社にとどまる。夏季減産期とはいえ、鉄スクラップ需要量は回復傾向にあるのが現状だ。H2炉前実勢価格は39,000～40,500円中心。

## 大阪 東鉄要因で市況は再び下落局面入り

大阪地区の鉄スクラップ市況は再び下落局面を迎えている。8月27日からの東京製鉄・岡山工場の値下げに対して、地場電炉8社中7社が買値を値下げ。目先も需要減退が見込まれることにより、荷動き次第では一段安に振れる可能性が高い。「湾岸集荷が下支えとなり大幅な値下げは至りにくい、需要が少ないだけに下げ余地はありそうだ」（電炉購買担当者）との指摘が聞かれる。H2炉前実勢価格は、38,500～40,500円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、8月28日午後時点のもの)

08

## お知らせ JVR (日本自動車リサイクル研究所) より

「まちかどの講演会」第1回～自動車解体の自動化・省力化について～  
参加者募集のご案内

JVRでは「まちかどの講演会」第1回を10月6日に開催いたします。本講演会は、リサイクル業界の関心ごとを題材に講師が話題提供を行い、マインドマップ手法を用いて参加者と講師の意見交換を実施し「ディスカッションの中から今後の活動に繋がるようなアイデアを発想する」ことを主旨として行う講演会です。参加募集チラシをご確認の上、ふるってご参加ください



詳細はこちらから ▶ <https://jvr.tokyo/images/20250821.pdf>

■ 第1回申込締切日：2025年9月26日（金）JVR事務局宛て

## 編集後記



「人が足りない」「資金が不足している」「入庫車両の減少が続いている」「ライバル企業が出現し競争が激しい」——これらはすべて、私の愚痴です。

しかし、「身の回りに起きていることは全て必然」「感謝して受け止めるのが正しい姿勢」「苦難はいつまでも続かない」「苦難は自分を鍛える貴重な試練である」「人が真剣に考えるのは、苦難に直面したときである」は、今年1月に泉下の客となられた株式会社ローヤル（現・イエローハット）創業者、鍵山秀三郎氏が、実業人として心が折れそうな経営者に向けた、鼓舞と叱正の言葉の一節です。

さらに、氏は「今自分にできることから一つ一つ始めること、工夫次第、努力次第、自分次第——それを受け入れた瞬間から、不思議と人生が好転する」とも述べています。

今まさに、厳しい局面での矢面に立ち、経営の舵取りを任されている私たちは、目の前で起きている事実を受け入れ、自らの手で舵を切り、経営を好転させていく好機と捉え、二度とない人生を力強く切り拓いていかなければなりません。

広報部会長 田村 幸男

## 9 月の主な行事予定

※急遽、日程変更・延期の場合がございます。

- 1日(月) | 自動車リサイクル士新規講習会 講習動画配信開始 (11/28まで)
- 3日(水) | 第6回広報部会 (対面)
- 5日(木) | 第60回産構審・中環審合同会議 (対面・WEB)
- 10日(水) | 第2回ブロック長会議 (対面・WEB)
- 12日(金) | 沖縄ブロック会議 (対面)      17日(水) | 関東ブロック会議 (対面)
- 18日(木) | J-FAR (資源回収インセンティブ) 定例会 (WEB)
- 29日(月) | 第7回広報部会 (WEB)
- 30日(火) | 自動車向け再生プラスチック市場構築のための産官学コンソーシアムWG 1 (対面・WEB)

